立憲民主党・枝野幸男代表インタビュー（抄）

●コロナ対策

がんばれ立憲民主党の会　共同代表　橘民義（以下、橘）

まずコロナ対策についてお聞きします。政府がちゃんとしていないことは、もうみんな分かっている。では、立憲民主党が政権を取ったらどうしますか。

立憲民主党　代表　枝野幸男（以下、枝野）

政府は「医療施設が足りない」と言っていて、中等症の患者さんは事実上病院に入れません。ホテルを借り上げたりプレハブ（の施設）を作ったりすれば、中等症や重症は難しくても、医療スタッフ１人で軽症の方を何人も診察できます。

橘　プレハブを建てる土地はどうするんですか。

枝野　国有地があります。それに、インフルエンザ等対策特別措置法（緊急事態宣言の根拠法）を使えば、民間の土地を強制的に借り上げることもできます。

橘　医療スタッフは？

枝野　重症の方はかなりトレーニング積んだ方でないと（治療）できませんが、東京で１万人を超えている自宅療養の皆さんがすぐに相談できる体制を作るなら、セミリタイアされているお医者さんでも（対応は可能です）。総理が緊急記者会見で呼びかければいい。

橘　私たちのアンケートでも、８８％が「国債を発行してでも財源を確保して感染症対策・経済対策をやってほしい」と言っています。ぜひお願いしたい。

枝野　政府も金に糸目は付けず大借金してやっていますが、使い方が間違っています。昨年度の予算を３０兆円も使い残して、一番必要な飲食店や観光業、医療従事者に届いていない。我々が政権を取っても、自民党に「財源はどうする」なんて絶対言わせません。

●消費税

橘　消費税について。「消費税だけを議論するのはおかしい」という考えは理解しますが、世間は「消費税をどうするのか」となってしまう。アンケートでは「政権を取ったら４年間は５％以下に」が約７０％です。枝野さんの考えを分かりやすく聞かせてください。

枝野　この３０年の間に消費税（の税収）だけが伸びて、その分、法人税と所得税は減っています。これはおかしい。所得税や法人税を払える人に払ってもらうことをセットで（訴えて）いかないと、結局「財源がないから消費増税」という話になってしまいます。

もう３０年以上「消費税が政治の一番の争点」みたいになっています。時代遅れの議論だと思います。（政治が）やるべきことは（消費税を含む）いろんな税収を使って国民にどういう公的サービス提供するか。そういう議論に早く持っていきたいと思っています。

橘　そうなると、法人税や所得税をどうするのかという問題になりますね。

枝野　はい。これは上げます。まず所得税は、金融課税がべらぼうに低い。株の配当や売却益には、基本２０％しかかかりません。それ以上何兆円稼ごうと２０％です。あまりに不公平で、まずここを変えたいです。法人税は累進課税にします。「こんな大きな会社が法人税を払ってないの？」という話が山ほどあります。そ

こはちゃんと払ってくださいと。

橘　そう言えば「消費税５％を先に給付する」という話を聞いたことがあります。

枝野　消費税は所得の低い人ほど負担感が大きい。生活必需品にしかお金を使えない低所得者のために、消費税を減税する考えもあります。でも、所得の高い人も多額の消費税を払っているわけです。消費減税すれば、彼らが高級外車を買った時の消費税まで減税されてしまう。だったら、所得が低い人たちに（消費税の）１０％分を初めから現金で渡してしまう。そうすれば、消費税分の負担はゼロになります。

橘　あ、そうですよね。

枝野　はい。

橘　税金は暮らしに直結するので、皆さん本当にいろんな意見があります。政権を取ったら、今のような話を具体的にバシッと言ってくださると、分かりやすいと思います。

●支え合う社会

橘　枝野さんの著書『枝野ビジョン』には『支え合う日本』と書いていますね。その通りだと思います。どのように実現しようと思っていますか。

枝野　二つのことを言いたいと思っています。一つは、所得格差が拡大すると、景気が悪くなってお金持ちも損をすること。景気が悪いのは消費が落ち込んでいるから。お金を使いたくても使えない人たちが増えているから、どんなに良いものやサービスを提供してもモノが売れず、お金持ちも含めて国全体が貧しくなっていくのです。

だから「貧しい人のため」ではなく「お金を持っている人のためにも」ちゃんと再分配する。これが経済のあり方だという考えを共有したい。

もう一つは、例えば保育所が足りずに困っているのは所得の低い人たちだけじゃない。お金を稼いでいる人も、保育所がなければ困ります。高齢者の介護も同じです。

「競争だ、自己責任だ」とやっていたら、お金があろうがなかろうが、必要なものが手に入らない。だから「自己責任なんて時代遅れ」と言うんです。支え合うことは誰にとっても、あなたにとってもハッピーなこと。このことを共有したいと思っています。

●原発問題

橘　原発についてうかがいます。アンケートでは９２％が「再稼働を認めない、新増設を行わない立場を明確にする」よう求めていました。最近の枝野さんの原発に対する発言がどうも遅れているのではないか、本当に原発を止める気はあるのか、と見えるようです。

枝野　ちょっと反省すると、もう「その先」を言っているので……。原発を新増設しない。再稼働しない。これはもう当たり前。それを前提に「その先の話」をしています。具体的にどうやってやめていくかが、頭の９９％を占めているんです。メディアはなかなかそこを伝えてくれない。私も反省していますが、大前提をちゃんと言わないといけませんね。

実は「その先」は大変です。僕が一番心配しているのは技術者です。原発を廃炉にするには、今後３０年は（原子力の）技術者を育てなければいけませんが、やめていく原発の技術を学ぶ人をどうやって確保するか。こういうことをちゃんとやりながらでないと（原発ゼロの）リアリティーがなくなります。そういう「先のこと」を常に考えているんです。

橘　原発の問題については「連合の中にどうしても原発を続けたい人たちがいる。枝野さんは連合に弱い」と言う意見があります。どうですか。

枝野　連合の幹部に怒られますよ。「枝野はこんなに言うことを聞かないのに」って。「（原発の）再稼働や新増設は認めない」ことを、党の方針として明確に決めています。

●連合との関係

橘　こうした話でよく一緒に出てくるのが「連合が共産党を嫌っているから共産党と手を組むのは遠慮する」などという話です。アンケートに自由記入の欄を入れたら、連合との関係を書いてくださった方がたくさんいました。

枝野　労働組合や共産党との関係について、いろんな歴史があったのは間違いないと思います。でも、労働運動は労働運動として独立性を持ってやっていく。我々は政党として、他の政党とも連携できることは連携する。そこをちゃんと整理することで、大方の連合の皆さんとは認識を共有できていると思います。

４年前に１人で立ち上げた立憲民主党があの選挙を戦えたのは、草の根でたくさんの皆さんに支えていただいたことが一番大きいかもしれませんが、全国規模の国政選挙をやるのは簡単なことではありません。それをやってくれたのは、一部の連合の労働組合です。彼らが大勢の専従の職員を出してくれて、例えば私の遊説計画のロジをやってくれました。彼らがいなければ、総務省への政党の届け出もできなかったと思います。

政治と労働運動は別のもの。立場をわきまえながら、連携できるところは連携します。

●「応援団」との関係

橘　今回のアンケートで一番目立ったのは、立憲民主党が、党を応援している人たちや無党派層に対して、ちゃんと働きかけができているかについてです。８割が「できていない」と答えた。これはやはり深刻に考えていただきたいのですが。

枝野　私も忸怩たる思いです。あの時に立憲民主党に対して持っていただいた期待感は、おごった言い方をすれば時代の先を行っていたつもりでした。しかし、立憲のメンバーも含めて完全に共有できていたわけではないし、あの時は希望の党で戦い（後から）一緒になったメンバーと、感覚のズレがあるのは間違いありません。まず議員の間で認識の共有を図ることをこの４年間やってきたんですが、正直、まだまだだと思っています。

草の根で応援していただいているパートナーズの皆さんとは、一体化して活動できているエリアとそうでないエリアが非常にまだらになっています。大きな宿題だと思います。

去年の９月に党が大きくなり、スタッフも増えました。党本部から発信していろんなことを呼びかける体制は、少しはましになったので、頑張らないといけないと思います。

橘　総選挙もすぐそこですからね。

枝野　ただ（４年前の）あの時「ボトムアップの政治」「草の根の民主主義」と言ったのは、（そういうものが）「ない」から呼びかけたんです。１０年から１５年かけてそういう政党を作ろうと思っていましたが、最大野党となり、次の政権を目指さなければなりません。（今は）「ボトムアップの政治」の完成形はありませんが、１０年から１５年かけないと作れないものを作り始めたところだということは、ぜひご理解いただきたいと思います。

●安倍・菅義偉政権の検証

橘　「やるぞ」と言ってできなかった過去の民主党の経験もあるのかもしれませんが、私はある程度、いろんなことを言ったほうがいいと思います。例えば「モリ・カケ・サクラ」問題。何も解決していない。「赤木ファイル」も全部黒塗りです。政権取ったらきちっと出す、といったことを話してほしいですね。

枝野　今回のアンケートで一番勇気づけられた点です。おかしなことや理不尽なこと、「まっとうでない」政治をまっとうにさせることは（党の）一丁目一番地です。

次の選挙の政権公約の詰めをやっていますが、ここは大きく大々的に（言いたい）。この間隠されてきたこと、改ざんされたことをすべてオープンにする。「モリ・カケ・サクラ」からオリンピックの経費まで、すべて公開させる。これを政権公約の大きな柱の一つにします。ある人は、それこそ森友学園の敷地、あそこをショベルで掘り起こすまで……

橘　もう一回掘ったらどうですかね。ははははっ。

枝野　「それぐらい言ったらいいんだ」って。それぐらいの気持ちです。

橘　すごく安心しました。ぜひやってほしいと思いますね。

●沖縄問題

橘　最後になりましたが、辺野古の問題をどうお考えですか。

枝野　日米同盟は重視する立場です。だからと言って辺野古の基地がマストであるということは全くない。時間をかけて説得すれば、両立すると思っています。

日本の政治家は、アメリカとちゃんとケンカしてこなかったと思います。私は経済産業大臣の時、自動車交渉などで机を叩いて怒鳴り合いをしましたが、それで関係が悪くなるかと言えば、そんなことはありません。欧米のカルチャーからすれば、意見を激しくぶつけ合うことと（良い関係を保つことは）別です。

きちっと主張すれば、日米同盟と「辺野古なき普天間返還」は十分成り立つ（両立する）し、（日米）地位協定の改定も、日本がもっと強く求めればいい。半年や１年で結論が出るという無責任なことを言うつもりはありませんが、間違いなく動き出したということを、沖縄の皆さんに感じていただける状況は作れると思います。

橘　力強いですね。絶対に政権を取ってほしい。最近ちょっと、枝野さんの耳が小さくなっているんじゃないかと心配していたんですけど、今日は大きく見えます。

枝野　ありがとうございます。

上記、動画はこちらからご覧になれます。

https://ganbare-rikken.net/achv/post1/